

「与論島の活性化のために」

法文学部人文学科 1年 東 菜々美

「島のしくみ」の講義を受けて、与論島の活性化のために観光の点から提案を 2 つ行いたい。

1 つ目は、与論島のもつ景観を全体的に保ってほしい点である。人々は、なぜ旅をするのかという問いにおいて、人々は非日常を求めているのだと考える。与論島は、私のどの日常の中にないものを与えてくれたと思う。まず、海岸も百合が浜も現実を忘れるほどきれいであり、この体験をしてしまったら他の綺麗だと言われる海や海岸を訪れても与論島ほどの感動をしなくなってしまうのではと思ってしまった。そんな中で、残念だったことは、フェリーを降りてからバスで通った道が、整備されていなかったことだ。確かに、見える海岸は綺麗だったけれど、今は使われていないホテルや道路端や何かの残骸のようなものが雑な印象を受けて、与論島の玄関なのならば、がっかりしこれからの観光に不安を抱いた。これについては、その土地の所有の問題などもあって、改善が困難なのかもしれないが、道路端の整備を行うことで景観を保つべきだと思う。与論島のきれいな景色が多い中で、そこだけが逆に浮き上がって見え、残念だった。

2 つ目は、観光客 3 万人増加に向けてである。講義の中で久留副町長も観光協会の永井会長も観光客を 3 万人増やしたいと話されていた。そのために、客層の年齢・宿泊日数・何を目的できたのか・実際にどんな観光をしたのか・どの位消費が行われたのか・与論島を訪れるきっかけなどの分析が必要であると考え。実際には、すでにおこなわれているのかもしれないが、私が得られた情報の中には無かったため、提案したい。これは、与論島の観光に関係する人たちの協力と観光客の協力が必要なことであるが、これによって改善できる点や強化できる点があると考え。私が過ごした 4 日ほどの中で、見かけた観光客は学生と思われる年代から 30 代までが多かった。そして、観光客と思われるような 50 代 60 代を見かけなかった。与論島までの移動時間を考えると、学生の観光客が多いのは頷ける。しかし、大学生よりお金を使うと予想される定年を迎えた年代の観光客が増加を期待したい。久留副町長も観光客を学生から定年後の人々へとターゲットを変えたいと話されていた。50 代 60 代の年齢層が学生と同じように海で泳いだり、自転車で島を回ったりというような観光はおそらくしないだろうと考える。そこで、海中宮殿や百合ヶ浜で、結婚の節目を祝うイベントや南十字星の観測するイベントなどその年代をターゲットにしたイベントなどの計画をしてみることも提案したい。

また、観光の宣伝方法においてテレビや雑誌の効果は大きい。しかし、メディアに取り上げてもらうのは、こちら側からの働きかけでは限界があると思われる。そのため、SNSをもっと活用してほしい。実際に、私も役場と観光協会の SNS を個人的に閲覧させて頂いた。まず、感じたのは更新頻度が低い。そして、観光客が求めるような情報が少ないことである。きれいな海や海岸・景色の写真やお得な情報などをもっと更新頻度を挙げたほうが良

いと感じた。もちろん与論島の観光ガイドHPでも情報を得られ、写真も美しかった。だが、もう少し情報が欲しいと感じる。もし、テレビで紹介され、興味をもって与論島の情報を集めようとしたときに、更新頻度も低く情報も少なければ、がっかりするしフォロワー数も少なければ実際にはそんなに良いところではないのではという印象を抱かせるのではないかと考える。おそらく、SNSに投稿している方は地元の方で、海や景色は日常のことかもしれないが、それを見る私たちにとっては貴重なものである。例えば、この海岸はここが良くてこんなところを見てほしい、こんな地元の人しか知らない秘密がある、この時間が訪れるのがいい、天気の良いときの写真などもっとあればよいと感じた。フォロワー達がそれを友人たちにも教えたくなるような写真や情報があれば、次への観光客へつながるだろう。

最後に、与論島はまた訪れたいと強く思う場所でした。いつまでも、与論島が残っていてほしいと思います。私ができることは、「与論島は、絶対1度は行ってみるべきだよ。」と周りの人に言うことだと思います。講義をしてくださった方々、飲食店の方、話に聞いた毎日海岸のごみ拾いをされている方、与論島を守ろうと熱い思いがあるのだと感じました。与論島を訪れることができるとても幸せでした。ありがとうございました。